



スオスダイ！ (こんにちは)

主の御名を賛美いたします。私たちは2015年に日本バプテスト連盟より派遣され、2023年3月までの8年間、カンボジアで宣教活動を行ってきました。2023年4月、CBU（カンボジアバプテスト連合）より招へいされ、カンボジアでの宣教活動での継続が導かれました。

2024年1月に支援グループ「リビングフィールドの会」が発足し、更に2025年8月には、韓国の宣教団体「WUPM」への加盟が実現しました。主の御言葉と導きによって、現地での活動を継続しています。

近況報告

皆さま、いつもお祈りとご支援ありがとうございます。12月、1月と涼しく過ごしやすかったカンボジアは、2月中旬から急激に暑くなってきました。3月に入ると、照り付ける太陽に加え午後にスコールが来るなど、既に雨季のような様相です。

タイとカンボジアの国境付近での緊張状態が現在も続いています。カンボジア内でタイ製品を買わないという「不買運動」も続いています。教会では毎週、タイとの紛争が一日でも早く収束しますようにと祈りを合わせています。更に2月末に起きたイランでの軍事衝突のニュースを日々追いながら、心を痛めています。主の御介入によって、世界中で起こっている戦争が一日も早く停戦し、平和が訪れることを祈り願っています。



CBUオフィス教会、日曜学校
祈りを合わせる子どもたち



一番人気のくじ引きには子どもたちの長蛇の列ができました。

CBUオフィス教会 子ども市場

2月の日曜日、久しぶりに子ども市場「ティープサー」を開催しました。数か月に一度行う、お祭りのなお楽しみイベントです。今回は、ビンゴ、ボールのあて、射的、ボウリング、そして2種類のくじ引きを用意しました。子どもたちは、日曜学校への参加や御言葉の暗記などで集めたスタンプを使ってゲームに挑戦します。毎週コツコツと集めたスタンプを手に、嬉しそうに列に並ぶ姿がとても印象的でした。特にくじ引きは大人気です。

見よ、新しいことをわたしは行ふ。今や、それは芽生えている。あなたたちはそれを悟らないのか。
わたしは荒れ野に道を敷き、砂漠に大河を流れさせる。

イザヤ43：19

景品は、日本の教会、そしてブノンペンの教会から献品していただいた文房具やおもちゃなどです。これらの献品は、子どもたちの大きな喜びと励ましになりました。捧げてくださった皆さまに心から感謝いたします。

子どもたちは毎週、暗唱聖句を覚えたり、賛美を覚えたりと一生懸命です。それらの小さな積み重ねは決して無駄にはならないことを、子どもたちの姿を通して改めて教えられています。目に見える成果がすぐに現れなくても、これから主にあって忠実に歩み続けたいという思いを新たにしました。すべてを主に感謝いたします。



子ども市場に参加した子どもたち
みんな賞品をもらって、満足そうでした。



火事の跡地にできた簡素な小屋と、
NGOによって建てられたトタン製の住宅

集落の近況

前回お伝えしました、教会近くの集落での大規模火災の近況です。1月に集落を訪問した際は、全焼した跡地には柱だけが残されており、また全焼を免れた家では、焼けた部分にビニールシートが覆われていました。続く2月、焼失した跡地に1件の家が新たに出来ていました。住民の話によれば、トルコに本拠地があるNGOの支援で家屋再建が始まり、焼失した9件の家全て、順番に建てられていくだろうとのことでした。

現時点で、数名の方が家屋再建のための献金を捧げて下さいました。この場を借りて感謝をお伝えいたします。引き続き現場の様子を見ながら、献金をどのように集落のために用いるか祈っていききたいと思います。

小倉小学校へ贈り物

1月、教会から歩いて約10分のところにある公立小学校「小倉(おぐら)小学校」を再び訪ねました。小学校の名前「おぐら」は、かつて校舎の建設を支援して下さった日本人の名前です。カンボジアには日本の個人やNGOの支援で建てられた学校は多いですが、学校名に日本人の名前が残っていることは珍しいです。

現在、小倉小学校には1年生から6年生までおよそ2000人の子どもたちが通っており、教会に来ている子どもたちの多くが学んでいます。午前と午後の部に分かれており、午前は高学年、午後は低学年の時間となっています。



小倉小学校の入り口。
キリングフィールドの目と鼻の先にあります。



駆け寄ってきた生徒たち
教会に来ている子どもの姿もありました。

校長先生によれば、現在教員の数は23人で、昨年よりも増えているそうです。また、昨年11月に新校舎が完成し、これから旧校舎の改修工事が始まるとのことでした。新校舎を見学するために歩いていくと、子どもたちが次々と駆け寄ってきました。教会に通っている子も、以前通っていた子もいて、みんな元気いっぱい、笑顔で私たちを迎えてくれました。

今後この小倉小学校で、日本からの宣教チームと共に、音楽や日本語などを通して子どもたちと文化交流もできそうです。それはもちろん、福音を伝えるための土台作りには他なりません。今回、子どもたちの笑顔の中で、ますます主の導きを感じました。

更に3月頭、日本からの献品を小倉小学校へお届けしました。青葉キリスト教会（横浜市青葉区）、三宅友子先生が近隣の小学校「さつきが丘小学校」でボランティアをされており、その一環で生徒やその保護者の方々に献品を募ってくださいました。文房具や洋服、生活雑貨等がぎっしり詰まった、大きな段ボール2箱を日本から送ってくださり、今回学校にお届けすることができました。校長先生は大変、喜んでくださいました。

現地のニーズに応じて、日本からの献品をお届けする活動を、宣教チームに運んでもらうなどの形でこれからも続けていければと祈っています。



(左) 贈り物を校長先生(右から二番目)にお届け
(右) 献品を募ってくださった「さつきが丘小学校」



WUPM Japan 伊藤仁先生来訪

2月下旬、WUPM (World Unreached People Missions) Japan代表、伊藤仁先生がカンボジアへ来られました。2023年夏、主の不思議な導きによって伊藤先生との出会いが与えられました。以来、日本での宣教報告のために知り合いの教会をご紹介くださるなど、一貫してカンボジア宣教を支え続けてくださっています。昨年8月、私たちがWUPMに正式加盟したことを受け、今回は宣教地の視察と宣教師のサポートのためにプノンペンを訪ねてきました。



「希望の糸」にて。伊藤先生(右)
ケマさん(中央)、スレイモムさん(左)

滞在中は、カンボジア女性支援「希望の糸」の活動に参加され、キリングフィールド近くの集落を訪問されました。また、オフィス教会では日曜学校と主日礼拝でメッセージを取り次いでくださいました。さらに、プレイヴェーン州にあるムッポン先生の教会にも足を運ぶことができました。

宣教地には、それぞれの地域特有の困難や課題、そしてニーズがあります。また、宣教師一人ひとりにも異なる課題や必要があります。今回、先生に実際に現場をご覧いただきながら、それらを率直に分かち合う貴重な時が与えられました。共に祈る中で、大きな励ましと慰めをいただきました。主が伊藤先生を遣わしてくださったことを、心より感謝いたします。



プレイヴェーン州(プノンペンから東に車で2時間)
ムッポン先生の教会にて

「希望の糸」近況

マクラメアートを用いたカンボジア女性支援「希望の糸」の近況です。出来上がったマクラメアートの製品は、プノンペンにあるクリスチャン運営のカフェ“Jars of Clay (土の器)”で販売しています。2月、店長のご好意によって、売り場のキャビネットを1つ増やしていただき、2つのキャビネットにより多くの製品を販売できるようになりました。主の導きに感謝いたします。

今、製品の中で力を入れているのは、携帯ストラップです。日本でもカンボジアでも、長短様々なストラップをスマートフォンにつけている女性を、以前よりもよく見かけます。マクラメ編みが生きる、シンプルなストラップを試行錯誤しながら開発中です。お祈りいただければ幸いです。



(左) 開発中の携帯ストラップのサンプル
(右) 売り場のキャビネットが2つになりました。

来主と栄主の学校生活

来主と栄主は、プノンペン市内にある、ミッション系のインターナショナル校「ホープインターナショナルスクール」で学んでいます。2月に、来主、栄主ともに大きなスポーツの大会がありました。プノンペンにある、約10校のインター校によるトーナメント式の大会です。カンボジアでは、一般の公立学校ではもちろん、インター校でも、中高生が大規模なスポーツ大会に参加できる機会はかなり限られています。今回行われた大会は、ホープスクールが参加できる最も大きな大会です。来主が所属する高校部ではバスケットボールが行われました。ホープスクールチームは順調に勝ち上がり、準決勝に進出しました。



高校部、準決勝にて
ジャンプしてシュートする来主

準決勝では接戦となり、惜しくも3位という結果でしたが、チームの結束により生まれた結果を、皆で喜び合っていました。一方の中学部ではサッカーが行われ、栄主が所属するチームもまたベスト4に進出しました。準決勝はPK戦までもつれましたが、高校部の来主と同じく3位という結果でした。表彰後、メダルを首にかけキャプテンの栄主を胸上げするなど、チームの健闘を皆で称え合っていました。

来主、栄主共に準決勝で敗れ、優勝を逃した悔しさは強かったと思います。しかし試合後に、チームメイトと互いを称え合う2人の姿に、主がスポーツを通して二人を成長させてくださっていると実感しています。



三位の銅メダルをもらい
チームメイトから胸上げされる栄主

祈りに支えられて 一夏の一時帰国に向けて

皆さまのお祈りとご支援、そして何より主の祝福によって、ここまで生活と宣教の働きが守られてきました。皆さまの尊いお支えに、心より感謝いたします。今年も6月から7月にかけて、日本へ一時帰国する予定です。帰国中には、より多くの教会や個人の方々とお会いし、カンボジア宣教の恵みを分かち合う機会が与えられることを願っております。一時帰国に関わる必要が主によって備えられますように、引き続きお祈りいただけましたら幸いです。

先立って歩んでおられる復活の主に信頼しつつ、これからも現地での宣教に忠実に仕えていきたいと願っています。



皆さまのお祈りとご支援にいつも感謝しています。
一時帰国の準備のために、どうぞお祈りください。

＜祈りの課題＞

1. 6月～7月の日本一時帰国の計画が主によって導かれ、守られるように。
2. 現地での宣教の働きが守られ、これからも主にあって実を結んでいくことができるように。
3. CBUオフィス教会の子どもたち、青年たちが主の恵みによって更に成長するように。
4. 教会近くの小学校「小倉小学校」との関係が深められ、福音を伝える土台が作られるように。
5. カンボジア女性支援ミニストリー「希望の糸」の新製品が多くの人々に広まるように。

嶋田 和幸・嶋田 薫 (WUPM宣教師)、来主 (くろす、17歳)、栄主 (えいす、13歳)

(連絡先) Eメールアドレス

dekakurosu3927@gmail.com

ホームページ: <https://living-field.org/>

(献金振込先) 楽天銀行 ノエル支店 (支店番号 246)

口座番号 1081064 シマダ カズユキ

